

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100164		
法人名	社会福祉法人 正生会		
事業所名	グループホーム つばさ(1階、2階 ユニット合同)		
所在地	静岡県焼津市田尻北790		
自己評価作成日	平成26年10月25日	評価結果市町村受理日	平成27年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2295100164-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成26年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の多様なニーズに対応できるよう毎月多くの企画を行っている。園芸・誕生会・レクレーション・季節メニューなど実施の2か月前から起案を立て準備を行っている。またご家族との交流も大切にしたいと考え、バスハイクや家族会を開催している。一人ひとりにとって大切な誕生月には4つの案の中からご家族に選んでいただき、楽しい時間を過ごしてもらえよう取り組んでいる。毎日の生活の中では個々の入居者に対し自己決定できるような声掛けを心掛けている。入居者の皆さんがやりたい事・やれる事を一つでも多く見つけ、充実した毎日が送れるよう支援している。支援に対しては全体会開催ごとに振り返りを行い、取り組みの統一を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念「笑顔あふれる和みの家」の「和」には本人だけでなく家族も含め幸せにとの願いが込められています。かねてより大切にしてきた絆ですが、例年は利用者と職員とでおこなった「誕生会」を本年度は家族と一緒に祝い喜びを分かち合いました。恒例のバスハイクには3日間で10家族15名の参加があることから、つながりの確かさが感じられます。これらは志を一つにしたチームケアの賜物で、センター方式シートをツールとした綿密なアセスメントを展開し、プランと記録を連動させることで磨かれた観察力がアウトプットを意識した勉強会にまで昇華しています。職員間のさりげないフォローも光る事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に全職員で理念を作成。会議の都度振り返りを行い、全職員が同じ方向に向かってケアを行っていくための道しるべとなっている。	"笑顔あふれる和みの家"の"和"には本人だけでなく家族も含め幸せにとの願いが込められています。職員は理念に基づいた個人目標を定め、家族と共に過ごす企画が毎月実施されていることにも反映が現えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域で行われるイベントには極力参加している。桜まつり・焼津港マラソン応援・夏祭り広報活動・区民体育大会応援などに参加し地域住民との交流を図っている。	事業所夏祭りはポスターで広報しバンド演奏や無料マッサージ、駄菓子屋に5名が来場して賑わいました。保育園訪問や園芸、傾聴ボランティアが来所し双方向の交流が叶っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はまだ取り組んでいない。運営推進会議のなかで自治会長よりコミュニティーの場を作っていきたいというお話があり、今後グループホームとしても参加していきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや現状報告を行い助言をいただいている。運営推進委員を務める民生委員の他に地域の民生委員の方が交代で2名会議に出席してくださっている。	市長寿福祉課、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、介護相談員、家族をメンバーに定期開催し、地域福祉の現状と課題を其々の立場から報告して協議する機会となっていることを議事録から確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて報告、助言をいただいている。また運営推進会議以外にも適宜連絡を取り助言をいただいている。	運営推進会議やグループホーム連絡会に毎回出席がありその場で疑問点に応じてもらっています。介護相談員の定期訪問もあり、市内の『介護保険相談』に綴られた内容も参考に事業所のケアを振り返っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会にて身体拘束廃止の勉強会を開催している。焼津市介護相談員など来訪者からの言葉にも耳を傾け自身のケアについての振り返りを行っている。	実践者研修の実習課題に全職員で取り組み、本人の気持ちを観察した結果一つひとつの行動に理由があることに気づき"一対一の時間を大切にする"、"対象者だけでなく他の利用者へのサポートも重要である"と学び活かしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスから虐待に至ることのないよう注意している。対応が難しい入居者については話し合いを行い統一したケアを心掛けている。全体会にて高齢者虐待防止関連法について勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ファイルを作成し、職員がいつでも閲覧し学べるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時にアンケートや意見・要望の聞き取りを行っている。また、面会の際には必ず意見要望等の確認を行っている。	毎月行事への参加があり、年に一度の家族会はスライドを交え和やかな懇談会となっています。アンケートでは「果物を撮らせてやってほしい」「体を動かすレクを」といった要望があり速やかに応えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会開催前にはすべての職員にアンケートを取り、職員の意見や提案を聞いている。	意見を出しやすいようフロア毎の話し合いを重んじており、活性化した議論は「認知症の人を驚かせないで介護することの重要性」、「おいしく豊かな食事」などアウトプットを意識した勉強会に発展しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設理念と部署目標に基づき、個々の年間目標を作成し取り組み、年度末に達成度を評価している。また年2回自己評価を行い、上司が個々の職員の努力に対し評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月隣接施設の内部研修に参加。また外部研修にも積極的に参加している。参加後には報告会を開き、施設全体がレベルアップできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	焼津市内のGH連絡会に参加している(1回/3ヵ月)。第5回日本認知症グループホーム大会参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成。センター方式 B-3シートの記入。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会議において家族との関わりについても話し合いを行っている。誕生日には家族の希望を聞きながら4つの案の中から選んでいただき交流の機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の利用。自宅ほか馴染みのある場所への外出について家族に提案し、必要に応じて協力体制を整えている。また家族だけでなく近所の方の面会も多くある。	敷地内に建つ避難タワーへの防災訓練の帰りに友人が立ち寄る光景もあります。遠方の家族宅に職員と一緒に出掛けたり複数のセンター方式シートから関係性を把握して外出支援にも役立てています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や助け合いの気持ちを大切に、必要に応じて職員が間に入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2シートの記入。 日々の生活の中で自己決定する機会を多く持つようにしている。例えば飲み物は何が飲みたいのか、温かいものが良いのか、冷たいものが良いのかなど個々に決めてもらうようにしている。	センター方式シートはケアプランの見直しとともに担当職員が加筆修正しています。本年は「職員主導でなく自己決定を大切にする」ことに力を入れその変化は全国書道展で入賞を果たした作品の伸びやかさにも表れています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望者調査資料の作成。 センター方式 B-3シートの記入。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式 C-1-1、D-1、D-2シートの記入。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式によりケアチェックを行う。ケアチェックは各入居者の担当が行い、D-5シートには他5名の職員が記入。本人・家族からの意見の聞き取り。多くの人が関わり介護計画を作成している。	ケアマネージャー、担当職員、全職員と各々が定められた期間にモニタリングして見直しを図っています。介護記録、特記事項、プランを個人ファイルにまとめ、実践状況と記録、計画作成への連動が確立しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた介護記録の記入を行っている。また統一したケアを行うことができるよう特記事項については別紙にて保存、SOAPファイルにすべての情報を集約し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	園芸・誕生会・レクリエーション・季節メニューなど実施の2か月前から入居者の意見を取り入れながら起案を立て準備を行う。グループホーム内に留まらず隣接する特養との交流も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加。近所の大判焼き屋やカフェに出掛けることもある。また毎月傾聴ボランティアが来所し交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報の共有。入居者1人に対し月2回の往診あり。家族へのムンテラも希望に応じて行っている。	家族の協力で3名がかかりつけ医を継続し、受診では必要情報を書面で手渡して医師からも直接コメントをもらえています。協力医による全体往診と個別往診が月に一度ずつあり夜間帯でも連絡が可能となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。往診時の結果についても看護職員から介護職員へ申し送りをし、看護ともにも統一したケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携を図り、実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については適宜家族に確認。家族と方針を共有している。カンファレンス開催時に急変時対応確認書にて家族の気持ちを再確認している。	現段階では看取りは行っていません。急変時は救急車対応としており、『急変時対応確認書』では心肺停止状態での蘇生処置、夜間帯における連絡の希望有無といった項目があり半年ごとに意向を取り直しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会等で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備、定期的な防災訓練の実施。年2回は隣接の特養と合同で総合防災訓練を行っている。地域防災訓練では地域の方と一緒に避難タワーでの訓練を実施している。	地域防災訓練では利用者と事業所避難タワーへ昇り、下肢筋力維持を意識した取り組みが必至であると実感しています。有事には駆けつけてもらえる協力関係が地域とはありますが行事の都度参加を呼び掛けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。平成26年度認知症介護実践研修・自施設実習においては職員の対応のあり方について事例研究を行った。	接遇とマナーについては「不快と感じる言葉はつかわない」ことを実行し、場面ごとに検討を重ねた結果「言葉だけでなく私たちのサービスすべてが接遇に通じる」との理解に至りフロアごとに振り返りを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で些細なことであっても問いかけを行い自身で決めてもらうようにしている。また個々の能力を把握し過剰な介護にならないよう職員間で統一している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操時には「今日一日何をして過ごしたいか」を入居者に聞くようにしている。その他、入浴時間も個々のペースに合わせて本人に決めてもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容時のカラー・パーマの実施。起床時や入浴後には化粧品セットを手渡し整容してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回季節のメニューを取り入れている。メニューは入居者の意見を聞きながら作成している。切る→調理→配膳→片付けをそれぞれの入居者の得意とする部分に参加してもらっている。	近隣店舗から毎日食材が届き、個々の好みを取入れた彩り豊かな食事が並びます。野菜を刻んだり食器を下げてもらったり役割が発揮され、ボードに書かれたメニューが楽しみを倍増していました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士から助言をもらいながら、看介護職員が情報を共有し支援を行っている。食事形態や摂取方法など日々検討し援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。必要に応じて歯科受診を検討。食事前にはお茶でうがいを実施。食事をおいしく・安全に食べることができるよう嚥下体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し声掛けを行っている。可能な限りリハビリからボクサーパンツへの移行を検討し皮膚状態の改善に努めている。また必要に応じて夜間帯のトイレへの声掛け誘導もを行っている。	着脱しやすくフィット感があるボクサーパンツに変えたことでその快適さから自立が進んだり皮膚疾患が軽減した人もいます。失敗を気にする人には安心の声かけと早めの誘導、夜間は安眠優先で支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに牛乳や野菜を取り入れたり、散歩や運動を行い腸の動きを活発化させ自然排便を促している。また今後、他施設の取り組みについても勉強し取り入れていきたいと考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じて入浴していただいている。また入浴予定を伝え、1日のスケジュールを入居者自身に決めてもらっている。	週に3日を目安とし希望時間を聞いて行っています。入浴剤を入れたりお茶風呂を堪能すると得意の歌を披露する人もいます。浴槽を跨ぐことが困難になっても職員二人介助でゆっくり浴槽に浸かれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた静養時間の確保。また夜間ぐっすり眠れるよう、日中の活動量の調整を行っている。居室環境についても個々の希望に応じてケアプランに明記し統一したケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報のファイリング実施。与薬時には必ず本人の状態確認を行うことを基本としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道展や作品展への出展、園芸作業など個々に応じた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員間の連携を密にし、入居者の希望に応じて外出している。家族とのバスハイクでは吉田公園・花カフェ・ショッピングモール・静岡空港などに出掛けた。またブルーベリー狩りやわさび工場見学など多くの外出の機会を設けている。個別外出として隣町に住む家族宅への外出なども行った。	家族同行のバスハイクも恒例となり3日間で10組が参加しています。必要台数を駆使して月に2回以上外出し、距離や疲労度、休憩場所やトイレといった前年度の反省を参考に計画しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理のもとお金を持っている入居者もいる。食費より出費し、一人ひとり好きなおやつを買いに行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取り次ぎを行っている。暑中見舞い・年賀状の発送をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	足を伸ばして過ごせるよう畳コーナーを設けたり、バルコニーで日向ぼっこができるように工夫している。また四季に応じた施設内のレイアウトにも配慮している。	高床式ユニット畳は舞台になったり、日向の恋しい季節にも活躍しています。衛生管理点検表でトイレや台所、床の清掃と、室内温度湿度や換気、冷蔵庫内温度までチェックされ、一日2回のコンタクトポイント消毒も行われています。	清掃精度は人により感覚が異なります。家族アンケートに1件意見もあったため、あらためて清掃ポイントについて振り返ることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム全体がフローリングのため、居間に畳コーナーを設置し、入居者が足を伸ばしてくつろげる空間を確保している。また中庭の花や野菜の手入れを楽しみに毎日自ら中庭に出掛ける入居者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたチェストなどの持ち込み。家族の写真やお孫さんからの手紙を飾り次回の面会を楽しみにしている入居者も多い。	大好きな孫との写真や全国書道展での表彰状が誇らしげに飾られ、どの居室も家族や職員からの愛情が感じられます。来所する孫と楽しむ折り紙スペースとしてユニット畳を入れ和みの空間を作っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間や廊下等は車椅子やシルバーカー等を使用しても安全に移動できるような適切な広さを確保し、自立を促している。		